大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

揺らぐ「女教師」像：2000年以降の日本映画における表象分析から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪公立大学女性学研究センター 公開日: 2024-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉本, 和子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/0002000826

2023年度男女共同参画事業
「非正規化する女性職――生存のためのフェミニズム」

揺らぐ「女教師」像
――2000年以降の日本映画における表象分析から――

杉本　和子

はじめに

大阪公立大学で客員研究員をさせていただいております杉本和子です。本日は、現代の日本で働く女性の状況を予見していたともいえる2000年以降の日本映画における「女教師」の表象を分析し、今の日本の女性教員の労働状況について考察していきたいと思います。最初に自己紹介もかねて、なぜ30年間中学校の美術の教員として教育現場で働いてきた私が、定年前の57歳で退職し、大学院で研究の道に進むことになったのかを簡単に述べてみます。

私は1979年に大学を卒業し、男女雇用機会均等法施行前の民間企業に３年勤務してから教職へ転職しました。美術科教諭として採用されたとき、男女差のない給与や待遇と管理職以外の同僚の平等で自由な人間関係や仕事の自主裁量権（授業の内容は初年度からすべて自分で決められる）にうれしい驚きを感じました。しかし、しだいに体罰で生徒を威圧する男性教員の指導を、女性教員が「乳母」のような優しさでフォローするという学校内での性別役割分担を担うことに疑問も感じはじめました。

定年退職まであと５年という時、私は放課後の美術室で男子生徒からの性暴力を受けるという体験をしました。その中で、いまだ思春期の男子生徒から女性教員に対しての性暴力やセクシュアル・ハラスメント行為は教育的配慮という建前で隠蔽され、二次被害は放置されていることを実感することになりました。女性教員は他職に先んじて組合運動にも積極的に参加し、育児休暇をはじめとする諸権利を先進的に獲得してきたはずなのに、自身が男子生徒からの性暴力やセクシュアル・ハラスメント行為の被害にあっても、自らの指導力のな

さによる恥、自己責任ととらえ、告発をためらう現状があります。このような葛藤の中で私は心身を病み、ついには定年３年前に退職へと追い込まれました。しかし、自らの体験を何とか克服するためには、このような女性教員の現状の背景にあるジェンダー構造を探究することが必要だという思いで大学院に進学したのでした。

１　女性教員の自意識と「女教師」へのまなざしの乖離

大学院に進んで、女性教員への実態調査をもとにした先行研究の検討や自らの質問紙調査をする中で気づいたことは、女性教員の自身の意識（たとえば元同僚への質問紙調査の結果）と世間の「女教師」へのまなざしとの間にある大きな隔たりでした。そして、現在では公的な場からはジェンダー・バイアスを表現する言葉として排除されている「女教師」という用語が、週刊誌などのメディアやSNSにおいては、いまだ氾濫しているということでした。「女教師」という語に対し「男教師」という語が使われることはめったにありません。なぜなら、「女教師」とは男性教員との対等な二項対立に基づく表現ではなく、中心的存在、普遍的存在としての男性の「教師」に対して、周辺的副次的なものとしての女性の非対称な位置づけに由来する言葉だからです。その証拠にインターネットの検索機能で「女教師」と入れると、性風俗産業やアダルトビデオの紹介が真っ先に飛び出します。

週刊誌やSNSにおける「女教師」という用語の残存や性風俗やアダルトビデオ業界で「女教師」ものの商品価値が生じる理由は何でしょう。それはまず、「女教師」への「聖」と「俗」のイメージのギャップの利用です。次に学校という空間においては教師より下位のヒエラルキーに位置すると感じている男子生徒という立場であっても、男性と女性という性における権力関係によってその立場を逆転させ、ヒエラルキーの抑圧や劣等感からの解放を味わうことができるという構造があるからなのです。

このような経過の中で、従来から年に100本近く観るほど映画が大好きだった私は、映画表象分析へと研究の舵を切り直しました。映画における表象は現実そのものではないが、制作時の時代背景や観客（世間）のまなざしや期待を代弁し、時には近未来を先取りしたものや予見を含むということに気づいたか

らです。それは、女性（教員）が職業に就く存在として当たり前でない扱いをされてきたことのシンボルではないか。そして、「女教師」表象は戦後日本社会のジェンダー非対称な権力構造を覆い隠すために男女平等という建前を利用するという二重構造の典型としての役割を果たしてきたのではないか。このような問題意識をもって、私は日本映画における「女教師」表象を研究対象として選びました。

2　2000年代以前の戦後日本映画における「女教師」像の特色

2000年代以前の戦後日本映画における「女教師」像の特色としては、詳しくは大阪公立大学図書館に所蔵されております私の博士論文「戦後日本映画に映る「女教師」――『青い山脈』から日活ロマンポルノまで」（杉本 2023）をご参照いただきたいのですが、大きくとらえると次の４つの形になります。

まずひとつめは、女性観客が憧れるロールモデル、時代の半歩先を行く民主的な新しい女性像です。たとえば映画『青い山脈』は1949年に作られた第１作から1988年までの間に４回アダプテーションされています。1949年の原節子演じる民主主義のリーダーとしての「女教師」は「名誉男性」であり、男女平等のシンボルとして有名ですが、翌年公開の『白雪先生と子供たち』でも原節子は同様の憧れの「女教師」役を演じています。1957年には司葉子が結婚による威信の上昇を期待できる堅実なまじめな「女教師」を演じています。1963年には芦川いずみにより「女教師」は自ら性的役割を選び男性や若者を支えるサポーターとして演じられます。1975年には中野良子が処女という性規範から解放された自由でのびやかな女性である「女教師」を演じました。また、1988年には柏原芳恵が負の性体験すら手段にできるたくましい感情労働者としての「女教師」を演じます。このようにロールモデルとしての「女教師」像も時代の要請に応えるべく変化していきます。

次に多いのは、傷ついた者たちを癒す「やさしさ」「母性」「献身」「反戦」の象徴としての「女教師」です。有名な『二十四の瞳』（1954）の高峰秀子が演じる大石先生はその典型ですが、1987年にリメイク版では田中裕子が演じます。また沖縄戦での女学生の悲劇を描いた『ひめゆりの塔』も1953年だけでなく1982年、1995年とアダプテーションされました。1984年公開の『瀬戸内少年

野球団』で夏目雅子が演じた「女教師」もこの典型です。戦後50年近く日本映画界ではこの「女教師」像が観客の心をつかむ定番となりました。映画だけでなくテレビでも夏になると必ずこの「女教師」像がドラマに登場します。

３つ目は、欧米の映画でもよくみられる「寂しい独身女、学校権力のエージェント、性規範の管理者」としての「女教師」の表象です。そこには、経済的自立はできても婚姻制度に護られていないためにひがんで意地悪になった独身の「女教師」への軽蔑や憐憫という形をとったミソジニーが含まれています。代表的なものとしては『女の園』（1954）『白昼の通り魔』（1966）「山田ババアに花束を」（1987）などがあげられるでしょう。

そして最後に、性的妄想を掻き立てる対象、強姦神話の担い手としての役割を担う「女教師」の表象です。1972年から1986年の期間に日活ロマンポルノでは21作の「女教師」モノが製作されました。そこでは、男子生徒が「女教師」を強姦することは学校という大人の権力への抵抗の一種であり、強姦によって「女教師」は性規範から解放され自由になれるという「女教師」＋「強姦」の表象を生み出す強姦神話が登場します。堅実な女性の象徴である「女教師」が社会通念上のタブーを破り、性的な逸脱をするというギャップが楽しまれることが可能となるのです。「女教師」を「聖母」と「娼婦」というその両極を行きかう極端な表象にすることで、より刺激的なセクシュアリティの対象としての商品価値が生じるというわけです。それは1986年の男女雇用機会均等法施行後の女性の社会的進出の潮流に不安を感じていた男性観客のニーズに応えたバックラッシュ現象でもありました。

３　2000年以降日本映画に登場した厳しい未来を予見する「女教師」像

2000年以後「女教師」が登場する日本映画では、以前にはなかった展開がみられます。たとえば、生徒の罪を被って辞職し、転落の果てにホームレスとなる姿、教え子に我が子を殺され復讐の鬼と化す姿、妊娠したことによる生徒からのマタハラや迫害、いじめを抑止できぬ担任教員として矢面に立たされ追い詰められ精神疾患に陥る姿、簡単に解雇される非正規派遣労働者としての姿など以前にはなかった社会の負け犬としての「女教師」の表象が登場してきたのです。

それでは、ここからまるで20年後の日本の女性教員の労働者としての厳しい現状を予見していたかのような「女教師」像が提示されている５作、『嫌われ松子の一生』（2006）『告白』（2010）『先生を流産させる会』（2011）『ソロモンの偽証』（2015）『リップヴァンウィンクルの花嫁』（2016）をテクストとして、具体的にその表象を分析していきたいと思います。

①　『嫌われ松子の一生』（2006）

これは山田宗樹の小説を原作としたセミ・ミュージカル映画で、「生徒の罪を被って辞職し、転落の果てに引きこもりホームレスとして野垂れ死ぬ」というものです。ある「女教師」の壮絶な流転の物語を、極彩色使いの世界観で、時にコミカルにスタイリッシュなテンポの良い場面展開で、壮絶なリアリティとその対極にあるファンタジーを絶妙に織り交ぜて描いた作品です。2006年５月27日公開。主演は中谷美紀。監督・脚本を中島哲也が務めています。後にテレビドラマ、舞台化でリメイクされ、台湾および香港でも公開されました。また、韓国では独自の脚色で映画、舞台にリメイクされています。

この映画での印象的な予見的表象としては、校長によるレイプ未遂、教頭によるセクハラをうけ流す「女教師」の対処、つまり、学校という職場内での性犯罪やセクシュアル・ハラスメントの実在と隠蔽の実態が描かれている点にあります。

セクハラには抗議せず、おどけて軽くうけ流す。@『嫌われ松子の一生』（2006）

また、「女教師」は教え子を信じひどい仕打ちを受けても何度も騙され続ける世間知らずの優等生として表象され、その献身にたいしての嘲笑と憐憫が伝

わってきます。彼女の極端な流転の人生（父にほめてもらいたいと必死で受験勉強→国立大学教育学部卒→公立中学校教諭→性労働者（ソープ嬢）→服役→美容師→引きこもり→ホームレス）は学歴や教職資格はもはや女性の安定を保障しないことを意味します。多数派からの逸脱への不安、家族との関係性、未発達な自己肯定感、承認欲求という「女教師」の内面の葛藤も提示されています。

②　『告白』（2010）

元中学校教員の湊かなえによる同名のベストセラー小説の映画化作品です。監督は①と同じ中島哲也、主演は松たか子。2010年６月５日に配給東宝で公開されました。内容は、教え子に娘を殺されたシングルマザーの中学校教師が復讐の鬼と化し、生徒を相手に真相に迫っていくというもので、少年犯罪や家庭内暴力、イジメなど過激な内容を描写したミステリー映画です。第34回日本アカデミー賞では４冠を達成し、2010年度に日本で公開された日本映画の興行収入成績で第７位になるなど興行的にも成功した作品です。

冷静沈着に復讐への強い意志を持つ「女教師」@『告白』（2010）

この映画の予見的表象はもはや寛容な感情労働者ではいられなくなったシングルマザーである「女教師」の事情です。保育園の保育時間の後のつなぎ保育者が入院したため、子連れサービス残業（職員会議やクラブ活動）をせざるを得なくなった事情の中で発生した生徒によるわが子の殺人。彼女は女性の同僚や保護者（母親）との断絶の中で自己責任を果たせない子連れ「女教師」として無理解や批判にさらされます。警察も当てにできない学校内での事件の隠蔽、

個人的な復讐のシナリオを作り実行するしかないところまで追いつめられるのですが、警察による逮捕や公による裁き（死刑）にすがるのではなく、命の重みを体感させるため、自らの手で教育的制裁をしようとしたところに、「女教師」としての主体性が感じられます。絶望を克服し、あくまで冷静沈着に事を運ぶ強い意志を持つ「女教師」にくらべて、単純に生徒に愛され人気者でいたい熱血教師を夢見た後任の男性教員は、結局彼女に操られ挫折してしまうこっけいな存在として対照的に描かれています。

③　『先生を流産させる会』（2011）

この映画は、2009年に愛知県で実際に起こった事件（男子生徒が女性教師を流産させる目的で給食に異物を混入させた）をモチーフとしていますが、映画では実際の事件とは加害者の性別が変更されています。監督・脚本・製作の内藤瑛亮は「『先生を流産させる会』という言葉をテーマにした映画を作るためには、妊娠を嫌悪しているキャラクターでないといけない。この時期の女の子は妊娠できる身体になりつつあるので、女の先生を将来の姿として見ることもできるし、先生は生徒たちを過去の自分として見ることが出来るようにもなるかなと思って、女の子に変えました」と述べて、女性たちから批判を受けました。しかし、映画評論家の寺脇研は,「登場人物と社会はどういう関係なのかと考えることが出来るという意味ではこれは観る側も参加できる映画だと思う」と述べ、監督の姿勢を擁護しました。衝撃的な内容がカナザワ映画祭、ドイツ・ニッポンコネクションなど国内外の映画祭で大きな反響を呼び、2012年５月26日より一般公開されました。

体を張って命の大切さを伝える「女教師」@『先生を流産させる会』（2011）

この映画では、教育現場にも実在するマタハラに対して自らの母体や胎児の安全よりも生徒の指導を優先するようなプロ意識が要求される「女教師」像が描かれています。もはや女性にとって教職はそれほどの犠牲を強いられるブラックな職業になる可能性が予見されているのです。

しかも、妊娠４ヶ月のはずの彼女は常にハイヒールを履き女性性やセクシュアリティを感じさせながら、生徒に対する態度は管理的で厳しいため、思春期の女子生徒の嫉妬や反発をかう存在として表象されます。そんな「女教師」が生き延びる道は、最終的には自分の身体や胎児の安全よりも、生徒に生命の大切さを説く教育的理念を優先するというプロ意識しかないというわけです。ここでは「女教師」VS「女子生徒」VS「モンスターマザー」という男性の不在の構図が展開され、「女の敵は女」というあからさまなミソジニーにもとづいた事実の書き換えが行われています。

④　『ソロモンの偽証』（2015）

この映画は学校内で発生した同級生の転落死の謎を、生徒のみによる校内裁判で追求しようとする中学生たちを描く宮部みゆきによる長編推理小説を原作とした作品です。かなり複雑な構成のミステリーであるため、内容は要約しがたいのですが、転落死した生徒の担任の「女教師」を黒木華が演じています。校長によって隠蔽されていた彼女に宛てられた告発状が、隣人によりマスコミに流出し、世間の矢面にさらされることになったため彼女は追い詰められ、精神疾患に陥り、退職に追い込まれます。原作の小説では生徒自身による校内裁判で検察官（検事）を務めたクラス委員の女子生徒が弁護士になったという設定で、教員として赴任したのは転落死した生徒の第１発見者であった男子生徒です。しかし、映画では23年後に教員として母校に赴任したこの女子生徒が裁判の顛末を語るという設定になっています。

この映画における予見的表象としては、いじめで自殺した生徒の担任としてメディアの批判の矢面に立たされても、男性管理職からは護ってもらうことができず、すべて自己責任として切られ、使い捨てにされる「女教師」像です。事件の解決のために頼りになるのは女子クラス委員生徒、生徒による校内裁判の実現を応援できるのは発言権を持つ男性教員なのです。次世代への期待と希望として「女教師」の無念は23年後に教え子である女子クラス委員生徒が母校

マスコミの取材の矢面に立たされる「女教師」@『ソロモンの偽証』（2015）

の教員になることによって克服され、その頃には管理職も女性になっているという設定なのです。しかし、映画化の際に行われた性別の変更、つまり彼女が弁護士にならず、教職を継承することにしたあたりにこの映画のジェンダーの視点の限界が感じられるともいえるのではないでしょうか。

⑤　『リップヴァンウィンクルの花嫁』（2016）

この映画は派遣非常勤「女教師」七海が結婚や転職など流転の果てに自立を獲得するまでの経緯を描いた現代版「女の一生」といえる作品です。原作小説・脚本・監督は岩井俊二、前年『小さなおうち』でカンヌ映画祭で助演女優賞を獲得した黒木華が「女教師」を主演し2016年３月公開されました。

コンビニ店員と兼業する「女教師」@『リップヴァンウィンクルの花嫁』（2016）

この映画では現代進行している派遣非常勤教員の労働待遇の劣化が予見されています。もはや「女教師」は派遣会社に紹介された非常勤講師の給与だけで

は生活できず、コンビニ店員のバイトと兼業しています。採用試験に落ちた教育学部の同級生は教諭職につけないなら非常勤講師をするよりましだと、高い給与を求めて風俗業へ流れるという従来では考えられなかった状況が描かれます。また、生徒のリクエストに応じ授業でマイクを使ったため、派遣会社を通じて突然解雇された「女教師」は、SNSで出会った国立大付属校教諭との結婚による生活の安定を目指すも破綻します。そして、家を出てからホテルの清掃員→結婚式の代理出席者→高所得者（AV女優）のメイドと激動の転職を経て、結局web家庭教師と派遣教員の兼業をバランスよく行うことによって自己肯定感と精神的・経済的自立を獲得するという結末で描かれます。学校という管理的な空間で集団としての生徒たちを管理するのが苦手だった「女教師」が、流転の中でも継続することができたのは、不登校の生徒のためのwebによる家庭教師業でした。

４　映画の予見的表象とシンクロする教育現場の現状

このような2000年以降に製作された日本映画の背景となる社会状況には就職氷河期、つまりバブル景気の新卒採用における売り手市場から一転して急落した就職難の厳しさがあったと思われます。1991年３月から1993年10月までのバブル崩壊景気後退期を経て、2003年４月の郵政民営化、小泉内閣の「三位一体改革」でついに教師の雇用の安定性も崩れだしてきます。2008年９月リーマンショック、2011年３月11日東日本大震災なども日本社会に大きな打撃を与えました。

公教育の予算削減と少子化により13年近くにわたって公立学校の教員採用が抑制されたため、多くの学校現場では人手不足となり、教職者の労働環境はどんどん苛酷でブラックなものとなっていきます。また、教職員組合の加入率も低下しました。文部科学省初等中等教育局の「令和２年度　教職員団体への加入状況に関する調査結果について」という調査によると日教組加入率は1958年には86.3％だったのが2020年には21.3％となり、新採者の加入率は1960年には76.9％だったのが、2020年には18.7％にまで低下していきます（文部科学省初等中等教育局 2021）。

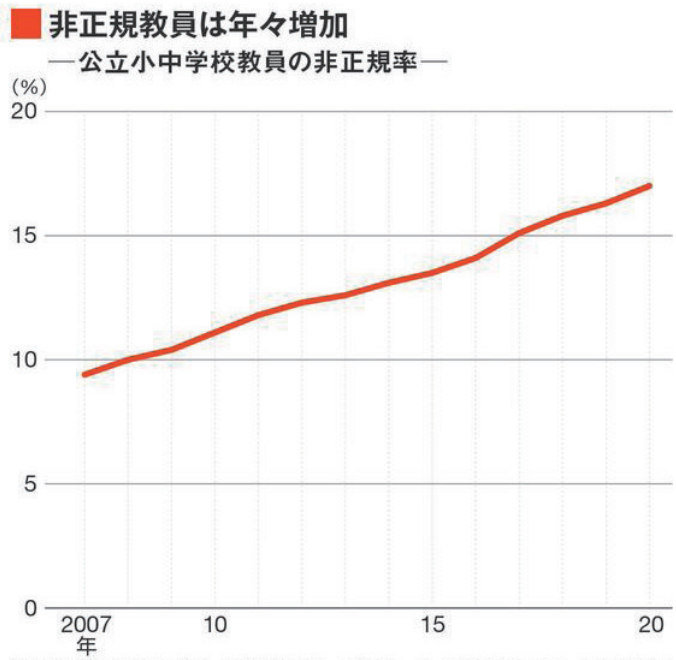
このような採用状況により、教員の年齢構成が歪となり、教育理念や指導法の伝承が困難にもなっています。教員の平均年齢が29歳などという学校もあり、教務主任や学年主任を採用２、３年で任される教諭まで現れています。非常勤

講師が担任を持つことも当たり前になっていきます。

教育現場のブラックな労働条件の中で、男性の教員志望者は減少し、女性教員の割合が上昇し、小学校以外も教職の「女性職」化傾向がより強化されてきています。2020年度には中学校や高校、大学などの女性教員の割合が過去最高に（文部科学省基本調査の速報値）なりました。ちなみに2021年度の小学校教員の男女比は３：５であります。令和５年度学校基本統計（学校基本調査の結果）によると女性教員の割合は、中学校が43.7％、高校が32.5％、大学が25.9％など女性教員数は過去最多となったのです（文部科学省総合教育政策局調査企画課 2023）。

しかし、これでも「国際教員指導環境調査」（TALIS（タリス））によると日本の小学校教員における女性の割合は61.4％でOECD参加15カ国・地域中最も低いのです。世界の教職の女性化はさらに進行しているといえます（国立教育政策研究所 2019）。

公立学校教員の非正規化の進行も著しいものがあります。2007年以降の14年分の非正規率を表したのが、次のグラフです。

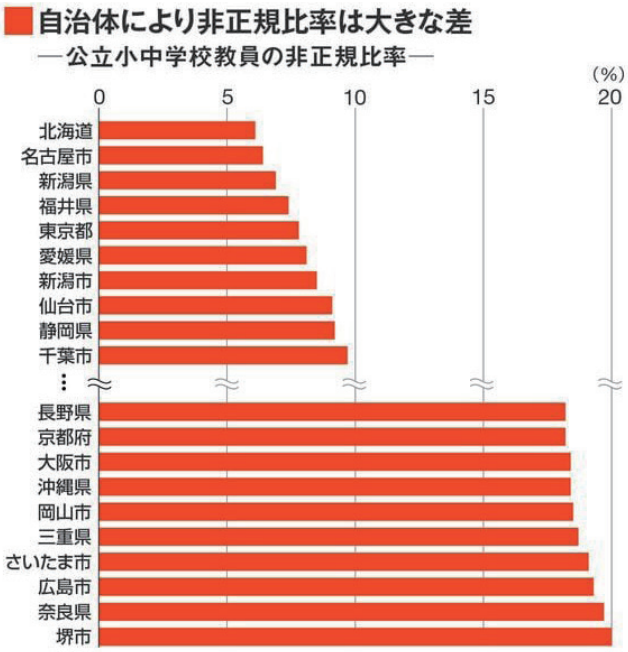


（注）臨時的任用教員、産休・育休代替教員、再任用フルタイム勤務者のほか、非常勤講師と再任用短時間勤務職員については常勤1人当たりに換算した数を計上
（出所）ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会

（佐藤、2022/６/16より）

一見して、公立学校教員の非正規化が顕著に進んできたことがわかります。直近の2020年の非正規率は17.0％となっており、この調子だと数年後に20％を突破してもおかしくないといわれています（佐藤 2022/６/16）。

非正規率は、自治体別に見ると大きな差があります。最も高い堺市では2020年の非正規率が20％に達しているのに対し、北海道や名古屋市、新潟県は７％を切っており、実に約３倍もの開きがあります。その背景として大阪府教育長による大胆な政策変更の例が考えられます。大阪府では教員の指導力をあげるためという名目で教師の点数評価制を徹底する教育長が主導する大胆な政策変更が進みました（山下 2014）。勤務評定の復活により管理職以外の教員も序列化、分断を促進したため、このような方針に異議を唱えたベテラン教諭の中途退職者が増え、その代わりに非常勤講師が増えたというわけです。



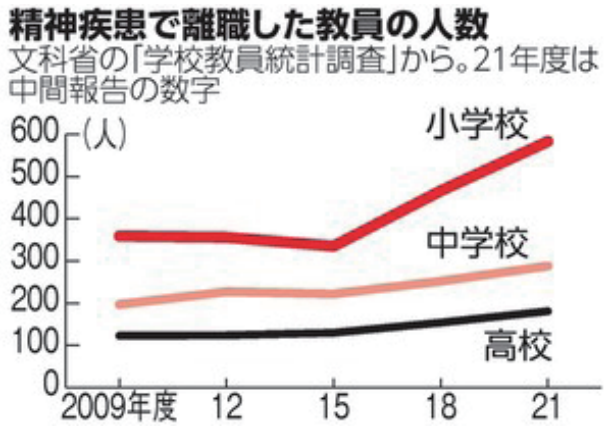
（注）非正規比率の低い下位10自治体と、非正規比率の高い上位10自治体を掲載。臨時的任用教員、再任用フルタイム勤務者のほか、非常勤講師と再任用短時間勤務職員については常勤1人当たりに換算した数を計上（産休・育休代替教員は除外）
（出所）ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会

（佐藤、2022/６/16より）

2023年７月28日の朝日新聞デジタルには次のような記事が載っておりました。

精神的な不調で離職の教員、過去最多に

精神疾患を理由に離職する小中高校の教員が過去最多を更新したことが、文部科学省が28日に発表した「学校教員統計調査」の中間報告でわかった。精神疾患を理由に休職する教員も増えており、教員の働き方改革が急務となっている状況が改めて浮かんだ。



（山本、2023/７/28より）

調査は３年ごとに実施。離職者については2021年度中の人数を、全国の国公私立の小中高校などに聞いた。

定年者を除いた離職者のうち、精神疾患が理由で離職したのは、小学校が7.8%にあたる583人（前回比117人増）、中学校が6.5%にあたる288人（同36人増）、高校が3.2%にあたる181人（同27人増）。いずれも、09年度の離職者から精神疾患を理由とするケースを調べるようになって以降、数も割合も最多だった。

昨年末に結果が公表された文科省の別の調査では、21年度に精神疾患で連続１カ月以上の病気休暇を取るか病気休職した公立学校教員は、全国で１万944人（全体の1.19%）と、初めて１万人を超えた。長時間労働や、現場に人手が足らず、業務量が一部に偏っていることなどが原因と指摘されている。離職者や休職者が増えて人手不足が加速し、子どもの学びに影響が出ることも懸念されている。

文科相の諮問機関の中央教育審議会では、25年通常国会での制度改正を

視野に、公立学校教員の働き方改革などについての議論が始まっている。（山本 2023/ 7 /28「精神的な不調で離職の教員、過去最多に　働き方改革急務　文科省調査」より）

「教員のメンタルヘルスの現状」という平成24年３月４日文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課文書によりますと在職者に占める精神疾患による病気休職者の割合は10年間で約３倍、条件附採用期間後に精神疾患を理由として依願退職した者は、病気を理由とした依願退職者のうち９割、精神疾患による休職教員の約半数は、所属校への勤務後２年以内に休職という結果になっています。一般企業の労働者と比較した教員の疲労度は「普段の仕事での身体の疲労度合」への回答割合でとても疲れるという答えは教員44.9％なのに対し一般企業14.1％という結果になっています。性別の精神疾患による休職者の内訳は女性が51.9％、男性は48.1％です。

次に『リップヴァンウィンクルの花嫁』（2016）ですでに予見されていた学校教員の派遣会社ですが、７年後の今現実のものとして盛況となっております。現在学校教員の派遣会社は10数社あり、登録すれば派遣会社を使っている私立学校の求人はほとんど網羅できます。どの派遣会社も私立学校が派遣会社に支払う金額の一部が派遣会社のマージンとなり、残りの金額が派遣教員に支払われる仕組みとなっています。マージン率は３割から４割を超すところもあります（edulo.jp 2023）。派遣会社による中間搾取の中でまさしく非常勤教員の給与だけでは生活できない事態も生じているのです。私立学校人事コンサルタントとして私立学校の教員採用業務のサポートまで担当する民間企業もあるのですが、この流れは公立学校にも及びつつあります。文教科学委員会調査室「公立学校運営の民間への開放」（小林 2014）によると大阪府・大阪市は、既存の小中学校での民間委託による学校運営のプロジェクトを提案しています。公立小・中学校の管理運営を民間事業者に委託することにより、従来の公立学校では成し得なかったダイナミックな学校経営を実現し、民間のノウハウや専門的人材を活用して、義務教育の質の向上と効率化・多様化を図るとのことですが、詳細な内容はプロポーザル方式により民間業者提案ということで効率化のためには「派遣会社を通じて非常勤教員の解雇」の可能性が出てくることになります。

このような2000年以降の日本映画での「女教師」表象の予見が的中したかの

ような今日の教育現場の状況が示すものはネオリベ政策の中で、女性にとって以前民間企業より恵まれているととらえられていた教職は、もはや雇用や経済的安定を保障する職業ではなくなりつつあるということです。「非正規化する女性職」としての女性教員および、それと同等の労働条件にさらされる男性教員をも含む教育労働の「女性化」といえるのではないでしょうか。もはや男性も女性並みの使い捨ての教育労働者として男女機会均等に扱われる存在となってきています。教員の序列化分断の促進に抗し、学校権力のエージェントとしての「優等生」の立場から脱却し、日々の生活に困窮する保護者や地域の声とも連帯できるような「生き延びるためのフェミニズム」に裏打ちされた教育労働者としての感性が必要とされているのです。

5　生き延びるためのフェミニズムの希望　世界の女性教員のストライキ

ここまで暗い話ばかりしてまいりましたが、最後に「生き延びるためのフェミニズム」に裏打ちされた教育労働者としての感性を行動に移している世界の女性教員のストライキをご紹介することで希望へとつなげていきたいと思います。欧米では日本に比べて圧倒的に義務教育の教員の女性の比率は高く、教員組合のストライキも女性主導で行われています。インターネットでニュースを検索すると次のような記事が見受けられます。

全米に広がる公立校のストライキ

今回の教員のストライキで掲げられている看板には「On Strike. For our Students（生徒たちのためにストライキ中）」とある。

教員の持ち出している主張は、教室あたりの生徒数が多すぎるとか、学校に保険指導員を増やすべきとか、英語の先生を増やせなど、給与のことは露骨に表には出していない。

（長野慶太 2019「全米に広がる公立校のストライキ、最大の被害者は貧困層の生徒たち」より）

ドイツの教員のストライキ

ノルトライン・ウェストファーレン州（以下NRW州）、ニーダーザクセン

州、ベルリン、ザクセン＝アンハルト州のいくつかの州で発生。特にNRW州ではストライキの集会がデュイスブルク、エッセン、ブッパタール等の地域にもともと多く存在していて、今回のストライキでは市民から多くの署名が集まった。
（NNA EUROPE　ヨーロッパ経済ニュース「ドイツ各地で教員の大規模スト」2015/３/４より）

これらのストライキはそれを支持する保護者とともに行われています。

イギリスでの教員のストライキ

イギリスで１日、全国教育労働組合（NEU）に所属する教師が賃上げと予算拡大を求めるストライキを行ない、イングランドとウェールズの２万3400校に影響が出た。
NEUは同国で最大の教師労組。この日のストには30万人以上の教師が参加したとしている。
多くの公立校の教師は2022年に５％の昇給を得たが、NEUによると、インフレ高騰により、実質的には給与削減になってしまっているという。
NEUは、３月15日と16日にも全国的なストを行うとしている。また、地域ごとでも教師ストが行われる予定。
（BBCニュース　「イギリスで教師30万人がスト　子供たちと親の反応は？」2023/２/３より）

では教員のストライキに対する子どもたちと親の反応はどのようなものなのでしょうか？　BBCがスト当日、ウェールズの首都カーディフで、子どもたちと親にインタビューした次の動画をご覧ください。

イギリスで教師30万人がスト　子供たちと親の反応は？（BBCニュース）

次にフランスでの教員のストライキの様子を報道した日本のテレビ朝日のニュース番組の映像をご覧ください。

フランス　感染急増で教師が大規模なストライキ実施（tv-asahi.co.jp）

欧米では教師の３人に１人が参加するようなストライキのために、休校を余儀なくされる事態になっても、子どもや保護者たちの理解が得られているのはすごいなあと思いませんか。日ごろの教育実践の中で子どもや保護者とよほど強い信頼関係があるので、先生たちは我慢しないで頑張れるのだなあと思います。また、保護者からこのような同じ労働者としての共感や支持が得られる背景には、コロナ禍での保護者の労働条件が日本に比べて比較的余裕があること、休校になったら保護者が遠慮なく仕事を休むことができ、それに対する賃金の補償がちゃんとあるからだと思われます。そして、そのような恵まれた労働条件も、コロナ禍でエッセンシャルワーカーたちを中心に、労働者として要求するのは当然だという意識でデモやストライキをおこない、勝ち取ってきたという実績があるからだろうと考えられます。日本の先生たちも、今こそ、優等生的に自己責任だとあきらめて子どもの管理者として使い捨てられるのではなく、教育労働者という意識に覚醒して、本音で我慢せず保護者との連帯ができるような運動を展開していくことが必要なのではないかと考えます。生存を脅かす労働の現状と労働の「女性化」との関係、それを生き延びるためのフェミニズムの運動ついては、この後伊田先生からまた詳しいご講演があると思いますので、このような運動に対する私の考察はこのあたりまでにさせていただくことにします。

おわりに

さいごのスライドは2023年に「女教師」俳優黒木華が江戸時代の寺子屋の師匠を演じた阪本順次監督の『せかいのおきく』（2023）のワンシーンです。

日本の最初の「女教師」は庶民の教育機関寺子屋で活躍していた「女師匠」でした。彼女らは既婚者や「後家」（夫に先立たれた女性）であることも多く、身分制度に縛られた幕府や藩の支配下にあった教育機関ではなく、私塾である寺子屋を職場として習字、読本、珠算、楽器演奏などを教え、まじめに学ばぬ男の子をも叱ることのできる権威ある存在として、僧侶と同等に保護者や子どもから尊敬や信頼を集めていたそうです。これらの「女師匠」はそれぞれの子どもにあわせた教材と進度で個人授業の形態をとっていました。そのため、明治維新後は近代国家の臣民意識の育成と集団化を目指した新政府によって「富

国強兵」「殖産興業」などの近代化政策には沿わないものとして排斥されてしまいます。その後、女性教員は150年間あまり近代国家の学校という制度の中で、女性教員は国民育成管理のエージェントである「女教師」として利用され、ついには使い捨てられようとしています。この映画の主人公の「女師匠」のように日本の女性教員にも貧困層の子どもたちや保護者とともに「せかい」に視野を広げて希望ある社会をめざせるよう、もう一度誇り高く教育労働者として立ち上がってほしいのです。そんな願いを込めてさいごにこのスライドを提示させていただきました。本日の私の話はここまでといたします。ご清聴ありがとうございました。

江戸時代の寺子屋の女師匠@『せかいのおきく』（2023）

【参考文献】

榊原禎宏（2010）「パートタイム労働としての教職像――ドイツにおける教員の検討から――」京都教育大学紀要　No.117, 35-49

教育業界ニュース（2023a）「ReseEd（リシード）」「学校教員の派遣会社の盛況」（resemom.jp）https://reseed.resemom.jp/article/2023/03/13/5826.html 2023/10/24取得

教育業界ニュース（2023b）「ReseEd（リシード）」「女性教員の割合が過去最高」（resemom.jp）https://reseed.resemom.jp/article/2023/08/28/7072.html 2023/10/24取得

国立教育政策研究所編（2019）『教員環境の国際比較：OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）2018 報告書――学び続ける教員と校長』ぎょうせい

小林美津江（2014）「公立学校運営の民間への開放」『立法と調査』2014. 3　No. 350

佐藤明彦（2022/6/16）文科省が蓋をする「教師の非正規率」の衝撃実態　20％を超える勢いで上昇、自治体間で３倍の差 「非正規化」する教師｜東洋経済オンライン（toyokeizai.net）https://toyokeizai.net/articles/-/596089?page=2 2023/10/24取得

佐藤世莉（2023/6/3）「【英国】単なる賃上げ要求ではない！　教員のストライキが長引

くワケ」（note.com）　https://note.com/satoseri/n/n4b9838bfe594　2023/10/25取得
杉本和子（2023）「戦後日本映画に映る「女教師」――『青い山脈』から日活ロマンポルノまで」2022年度大阪府立大学人間社会学研究科博士学位論文集
テレ朝ニュース（2022/1/14）「フランス　感染急増で教師が大規模なストライキ実施」https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000241402.html　2023/10/25取得
十川博（2018）「教職員のメンタルヘルスと長時間勤務、過労死、ストレス要因について」https://jec.or.jp/soudan/pdf/100_1.pdf　2023/11/26　取得
長野慶太（2019/1/24）「全米に広がる公立校のストライキ、最大の被害者は貧困層の生徒たち」https://forbesjapan.com/articles/detail/25067　2023/10/24取得
文部科学省初等中等教育局（2017）「教員勤務実態調査（平成28年度）教員のストレスに関する分析」https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/05/21/1409652_012_1.pdf　2023/10/26取得
文部科学省初等中等教育局（2021）「令和２年度　教職員団体への加入状況に関する調査結果について」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinji/1413032_00004.htm　2023/11/26取得
文部科学省総合教育政策局調査企画課（2022）「令和４年度学校基本調査概要」https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591_00007.htm
文部科学省総合教育政策局調査企画課（2023）「報道発表　令和５年度学校基本統計（学校基本調査の結果）確定値を公表」https://www.mext.go.jp/content/20230823-mxt_chousa01-000031377_001.pdf　2023/10/26取得
山下晃一（2014/3/3）「教育現場の“閉鎖性”を変える？　～大阪・教育改革の波紋～」『NHK クローズアップ現代 全記録』https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3470/　2023/10/24取得
山本知佳（2023/7/28）「精神的な不調で離職の教員、過去最多に　働き方改革急務　文科省調査」https://www.asahi.com/articles/ASR7W66VWR7WUTIL006.htmlazA　朝日新聞デジタル（asahi.com）　2023/10/24取得
BBCニュース（2023/2/3）「イギリスで教師30万人がスト　子供たちと親の反応は？」https://www.bbc.com/japanese/video-64507745　2023/10/24取得
edulo.jp（2023）「【2023年最新】教員の派遣会社厳選６社の評判を比較&徹底解説！」https://edulo.jp/hakengaisya-hikaku/　2023/11/24取得
money-academy.jp（2021）「日本とは違うドイツの労働組合とストライキの闘いかた」https://money-academy.jp/strike-broke-down-ger/　2023/11/24取得
NNA EUROPE ヨーロッパ経済ニュース（2015/3/4）「ドイツ各地で教員の大規模スト」https://europe.nna.jp/news/show/66801　2023/11/24 取得
Spiegel（2015/8/15）「教育者をめぐる団体交渉紛争」https://www.spiegel.de/wirtschaft/soziales/kita-streit-gespraeche-vertagt-vorerst-keine-kita-streiks-a-1048025.html　2023/11/24取得

【参考映像】

『嫌われ松子の一生』（2006）東宝
『告白』（2010）東宝
『せかいのおきく』（2023）東京テアトル、U-NEXT、リトルモア
『先生を流産させる会』（2011）SPOTTED PRODUCTIONS
『ソロモンの偽証』（2015）松竹
『リップヴァンウィンクルの花嫁』（2016）東映